

◆ 日常の点検・手入れ・保管

■点検・手入れの際の注意

- 日常の点検、手入れは必ず行ってください。
- 点検、手入れは消火し、必ずパーナードが完全に冷めてから行ってください。
- 故障または損傷したと思われるものは絶対使用しないでください。
- 不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなった修理に困るような場合は、お買い求めになった販売店または、当社「お客様係」フリーダイヤル ☎0120-75-5000までご相談ください。

■点検・手入れ方法

- 各部に油もれ、油のにじみがないか確認してください。
- タンクに油もれ、エアもれがある場合はオリングを交換してください。(交換方法は2ページ参照)

- 酸化器(予熱パイプ)は消耗品です。使用前に灯油がノズル以外の酸化器からにじみ出る場合、また燃焼中青色の火花の中に赤い炎が出るような場合は、酸化器が部分的に穴があき破損したと思われます。このような時は新しい酸化器と交換してください。(交換方法は2ページを参照)

■保管

- 使用後は必ず灯油を抜きとって保管してください。
- お子様の手が届かない場所に保管してください。
- 直射日光の当たる場所に放置したり、雨ざらしにしないでください。
- 転倒・落下させないでください。

※タンクの耐用年数は使用開始から約8年です。約8年過ぎた場合は使用しないでください。またタンクに腐食、へこみ、穴など異常のある場合は使用しないでください。

◆ 故障・異常の見分け方と処置方法

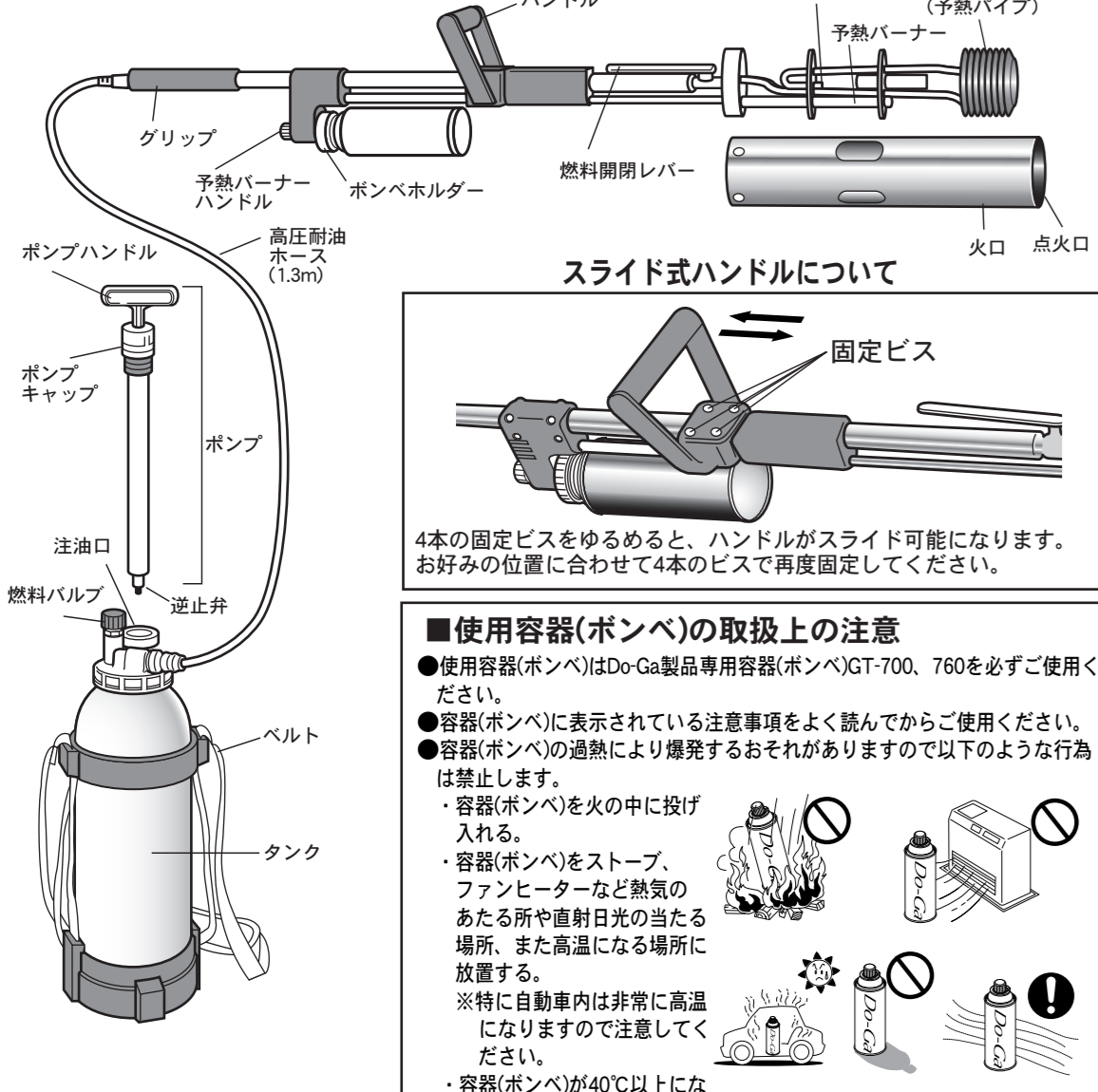
※生火・・・灯油が酸化されずに液体のまま噴射し、赤く燃え上がる状態

現象	原因	処置方法
予熱が不十分である		予熱を最初からやり直す
タンク内の圧力が低い		加圧ポンプによって加圧操作をする
燃料が不足している		消火してから燃料を補給する
圧力のかけすぎ		ポンプキャップをゆるめタンク内の圧力を抜き再び予熱を最初から行う
急激な加圧		ポンプキャップをゆるめタンク内の圧力を抜く
焼却時に出る煙を吸い込んだことによる嘔吐		火口を焼却物から離して追い風になるように使用する
ピストンのリングが乾燥又は破損している		ピストンリングに油をつける。それでも加圧できない時は新しいピストンリングと交換する。
酸化器が破損している		新しい酸化器と交換する
変質した灯油、汚れた灯油、水の混ざった灯油を使用している		変質した灯油、汚れた灯油、水の混ざった灯油は使用しない。灯油の保管状態に注意する。

8

◆ 各部の名称/仕様

■各部の名称(分解図)



上手な雑草の焼却方法

- 雑草は生えはじめに焼くのが最も効果的で簡単です。また燃くことにより害虫退治、土壌の殺菌、殺菌、活性化、雑草の種・毛根の焼却など様々な効果があります。
- 長く伸びきってしまった雑草を焼く場合は一度に焼くよりも、ゆっくりと焼くことで、雑草が燃え尽きます。さらにもう一度焼かれたものを焼くのは効果的です。

3

◆ 特に注意していただきたいこと

警告

■ 火災に注意

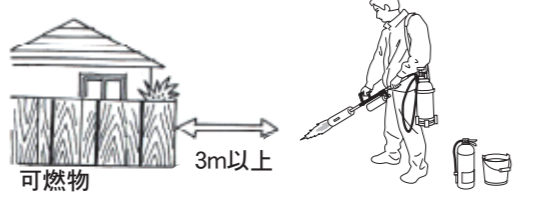
- 消火を確認 使用後は、必ず石油パーナードや燃やしたものの消火を確認してください。必ず水をかけ、火だねが残っていないことを確認してください。



- 風が強いとき、火災の発生の恐れのある場合は使用しないでください。

◆ 使用する場所 安全に使用するために

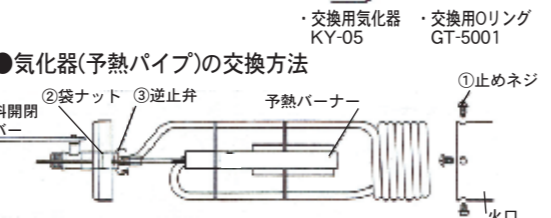
- 火気厳禁の場所や可燃物(家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板など)、からは3m以上離れて使用してください。



- 可燃性ガスの発生しない場所またはたまたま可燃性ガスが発生するものを使用しないでください。
- 必ず屋外で使用してください。
- 使用の際は、まわりに人や動物がいないことを確かめてください。
- お子様には絶対使わせないようにしてください。またお子様の手の届かない場所に保管してください。
- 使用の際は、作業しやすい靴と衣類を着用してください。

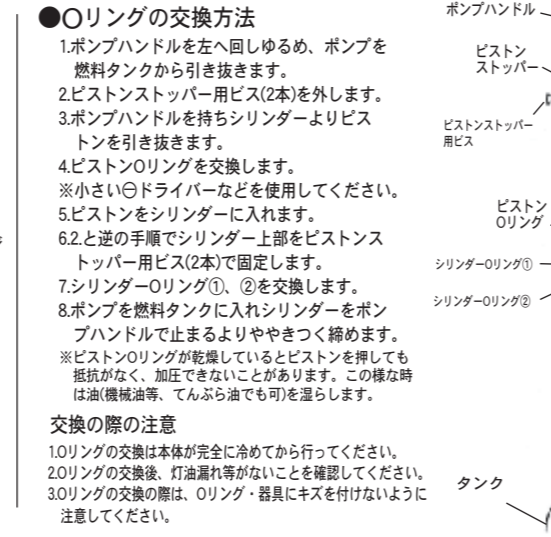
◆ 部品交換のしかた

- 酸化器(予熱パイプ)の交換方法
 1. ピンチングプライヤーを用いて、酸化器(予熱パイプ)の固定ビスをゆるめ、酸化器(予熱パイプ)をタンクから取り外します。
 2. 酸化器(予熱パイプ)の交換用部品(右図)と早く交換してください。



- リングの交換方法
 1. ピンチングプライヤーを用いて、ボンプを燃料タンクから引き抜きます。
 2. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 3. ボンプを燃料タンクから引き抜きます。
 4. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 5. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 6. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 7. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 8. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 9. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 10. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 11. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 12. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 13. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 14. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 15. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 16. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 17. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 18. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 19. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。
 20. ストッパー(ボンプ用ビス)を緩めます。

※パーナードが完全に冷めてから交換してください。



※パーナードが完全に冷めてから交換してください。

◆ アフターサービス

アフターサービスを依頼する前に故障・異常の見分け方と処置方法を見てもう一度確認してください。確認の上ご不明な場合は、ご自分で修理なさらず、お買い求めになった販売店または当社「お客様係」 ☎0120-75-5000までご相談ください。

Do-Ga Kusayaki GT-500G 保証書

この製品は万全を期していますが正しい使用にもかかわらず万一故障した場合は本保証書に製造番号、お買上げ年月日、販売店名、ご芳名、ご住所、お電話番号および症状をお書き添えのうえ、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

製品名・型名	Kusayaki GT-500G	ご芳名	
製造番号		ご住所	
保証期間	お買上げ日より1年間	お電話番号	()
お買上げ日	年 月 日		
取扱販売店・住所・電話番号		症状	

新富士パーナード株式会社

- ### 品質保証規定
- 火口、ノズル、酸化器(予熱パイプ)、オリング等の消耗品の交換。
 - 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - お買上げ後の落下、移動、輸送等による故障及び損傷。
 - 火災、地震、水害、落雷、塩害、弊社指定以外の燃料使用によるもの、その他、天災地変、公害による故障及び損傷。
 - 保証書の提示がない場合、修理をお断りすることがあります。
 - 本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えた場合、本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
 - 本保証書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

製造販売元 新富士パーナード株式会社
〒441-0314 愛知県宝飯郡御津町御幸1号地1-3
TEL.0533-75-5000(代) FAX.0533-75-5033
http://www.shin Fuji.co.jp MADE IN JAPAN
E-mail: info@shin Fuji.co.jp 2006.3

9



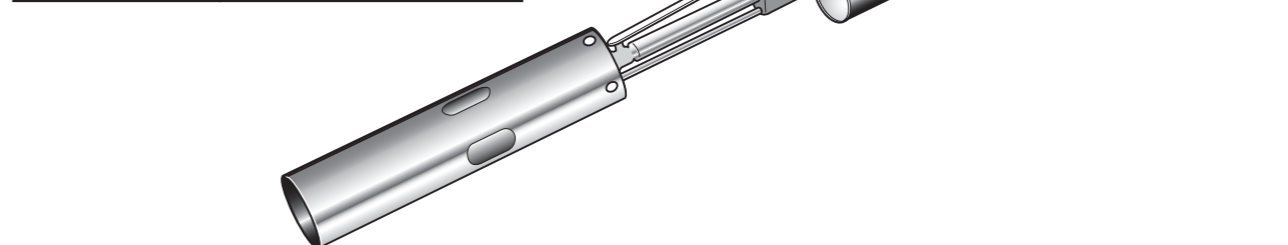
Kusayaki

取扱説明書 (生産物賠償責任保険付・保証書付)

このたびは屋外用携帯石油パーナード「Kusayaki GT-500G」をお買上げいただき誠にありがとうございます。

仕様

型番	GT-500G
使用燃料	灯油
容量	3.2ℓ(タンク容量4.0ℓ)
連続燃焼可能時間	約30～50分
外形寸法	パーナード・・・1,170mm ホース長さ・・・1.3m
重量	4.1kg(パーナード・・・2.9kg タンク・・・1.9kg)
火炎直径	80mm
火炎長さ	600mm
予熱時間	約2分
発熱量	59.3kW(51,000kcal/h)
付属品	電卓用テープ 予熱パーナード用ホース



- ### 注意
- 正しくご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。またお読みいただいた後も大切に保管してください。

屋外専用

10

◆ 特に注意していただきたいこと

危険

(取扱を誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを示します。)

■ ガソリンの使用厳禁

燃料は必ず灯油を使用してください。ガソリンなど揮発性の高い油は絶対使用しないでください。火災の原因になります。

警告

(取扱を誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

■ 可燃物の近くでの使用禁止

火気厳禁の場所、家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板などの燃えやすいものそばでは火災の原因がありますので絶対使用しないでください。

■ タンクの温度上昇に注意

給油後タンクの温度が上昇すると、タンク内の灯油が膨張し、タンクが破裂するおそれがありますので絶対使用しないでください。

注意

(取扱を誤った場合、使用者が傷害を負う危険、及び物損害のみが発生が想定されることを示します。)

■ 火傷に注意

燃焼中や消火直後は火口等の高温部に手などふれないように注意してください。やけどをするおそれがあります。

■ 異常時使用禁止

異常、ススの発生、炎の色などが普段と異なる異常燃焼を起こしたときは使用しないでください。緊急の場合であわてずパーナードを閉じ消火してください。

11

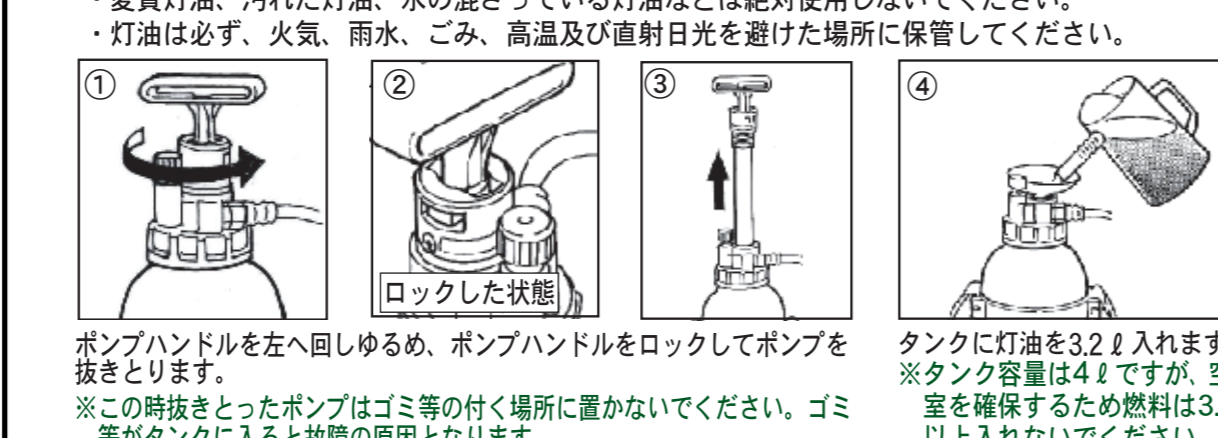
◆ 使用方法

1. ベルトの取付け方法



- 燃料は、灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。
- 変質灯油、汚れた灯油、水の混ざっている灯油などは絶対使用しないでください。
- 灯油は必ず、火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。

2. 給油



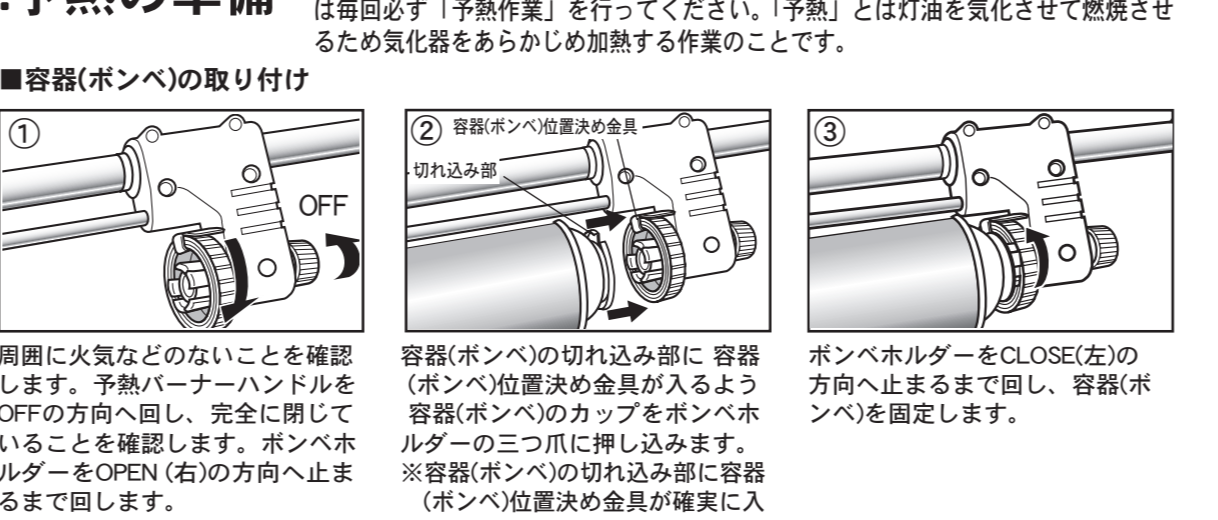
- 使用しない時は、容器(ボンベ)は40℃以下の温度の少ない場所にキャップをして保管してください。また容器(ボンベ)はときどき点検して錆が発生している場合はできるだけ早く使用してください。
- 容器(ボンベ)に強い衝撃をあたえないでください。

■ 使用済み容器(ボンベ)の処理に関する注意

- 容器(ボンベ)を痛めてサラサラと音がする場合はまだガスが残っています。そのまま温度の高い所に放置したり、火の中に入れてしまうと爆発する危険があります。
- 容器(ボンベ)は完全に空になってからゴミと分別して捨ててください。(各自自治体の処理方法に従って捨ててください。)

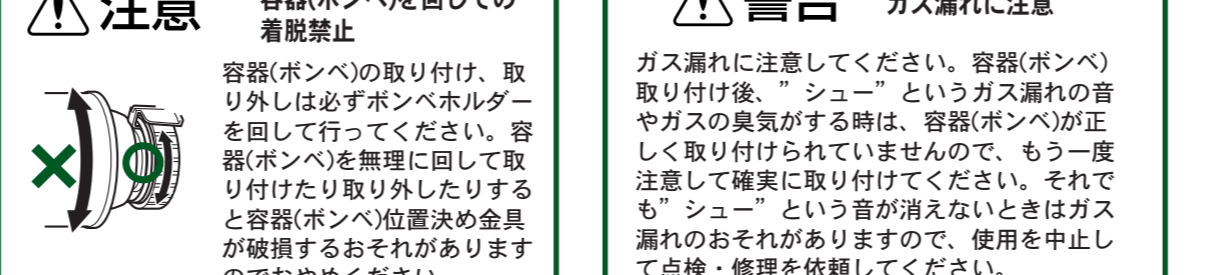
12

3. 予熱の準備



- 予熱の準備は必ず行ってください。「予熱」とは灯油を酸化させて燃焼させるため酸化器をあらかじめ加熱する作業のことです。

■ 容器(ボンベ)の取り付け



- 予熱の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。

■ 点火の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。



- タンクを地面に置き、タンクに燃料バルブを左へ止まるまで回し、燃料バルブを右へ回して開きます。
- 燃料バルブを右へ回して開きます。
- 燃料バルブを右へ回して開きます。

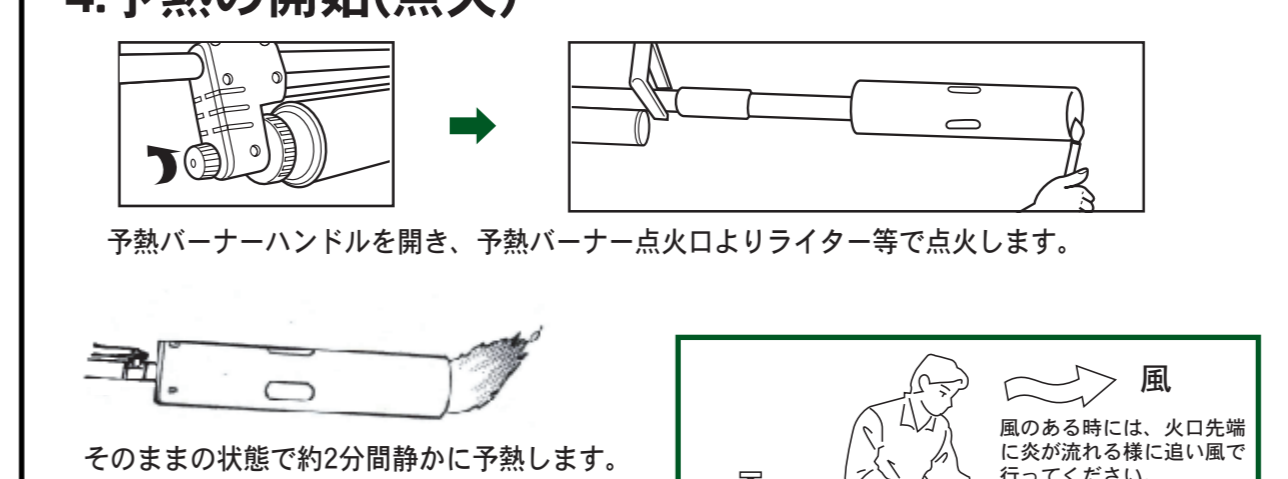
■ 点火の準備

- タンクを地面に置き、タンクに燃料バルブを左へ止まるまで回し、燃料バルブを右へ回して開きます。
- 燃料バルブを右へ回して開きます。
- 燃料バルブを右へ回して開きます。

13

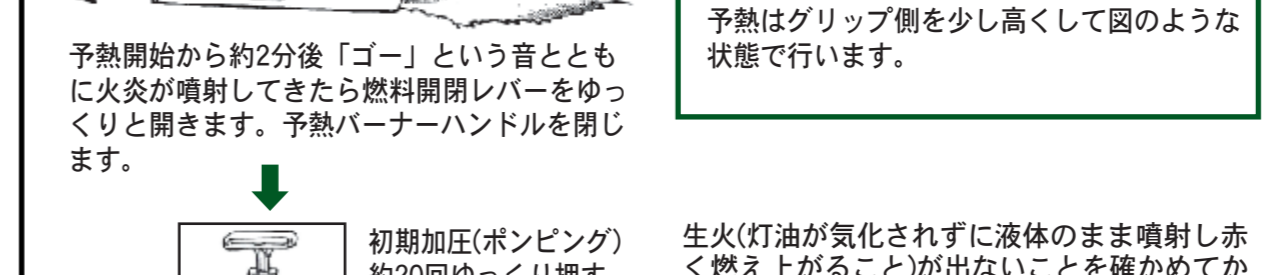
◆ 使用方法

4. 予熱の開始(点火)



- 予熱開始から約2分後「ゴー」という音とともに火炎が噴射してきたら燃料開閉レバーをゆっくりと開きます。予熱パーナードを閉じます。

■ 予熱の準備



- 予熱の準備は必ず行ってください。「予熱」とは灯油を酸化させて燃焼させるため酸化器をあらかじめ加熱する作業のことです。

■ 容器(ボンベ)の取り付け



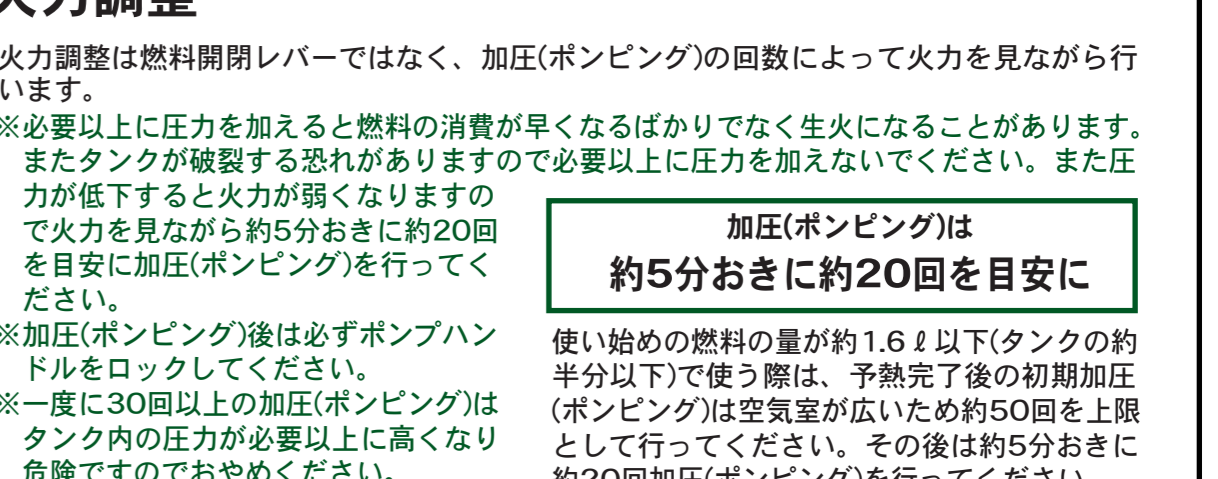
- 予熱の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。

■ 点火の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。



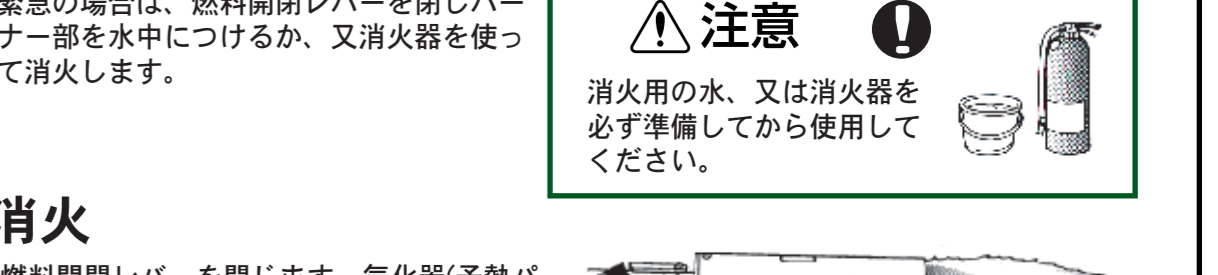
14

5. 火力調整



- 火力調整は燃料開閉レバーではなく、加圧(ポンピング)の回数によって火力を見ながら行います。
- ※必要以上に圧力を加えると燃料の消費が早くなるばかりでなく生火になることがあります。またタンクが破裂する恐れがありますので必要以上に圧力を加えないでください。また圧力が低下すると火力が弱くなりますので火力を見ながら約5分おきに約20回を目安に加圧(ポンピング)を行ってください。
- ※加圧(ポンピング)後は必ずポンプハンドルをロックしてください。
- ※一度に30回以上の加圧(ポンピング)はタンク内の圧力が必要以上に高くなり危険ですのでおやめください。

■ 予熱の準備



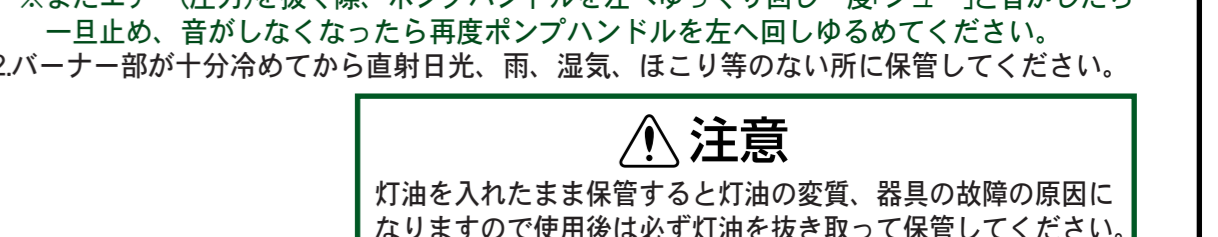
- 予熱の準備は必ず行ってください。「予熱」とは灯油を酸化させて燃焼させるため酸化器をあらかじめ加熱する作業のことです。

■ 容器(ボンベ)の取り付け



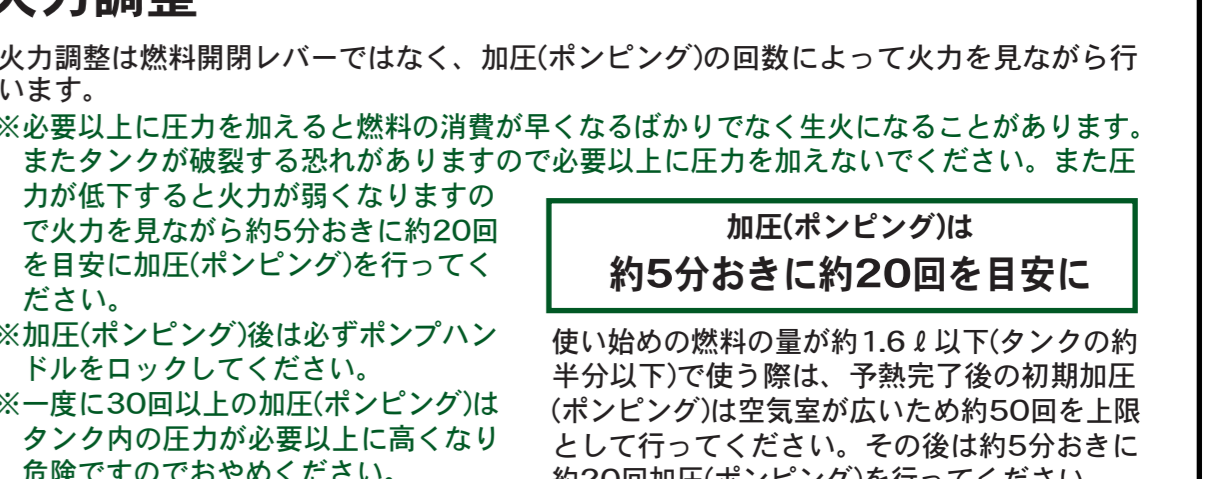
- 予熱の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。

■ 点火の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。



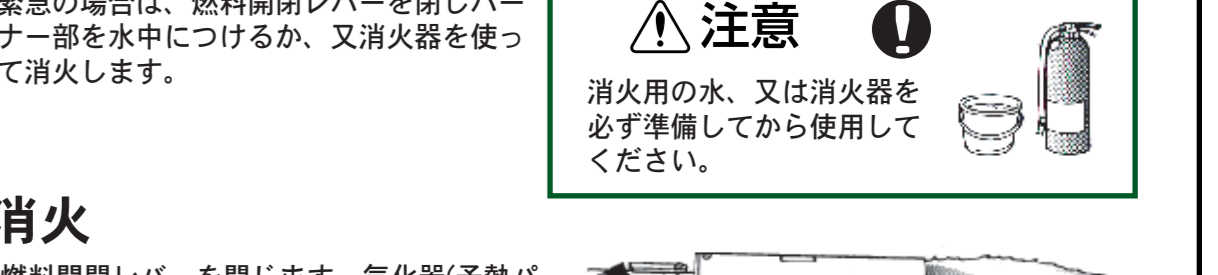
15

6. 緊急時の消火



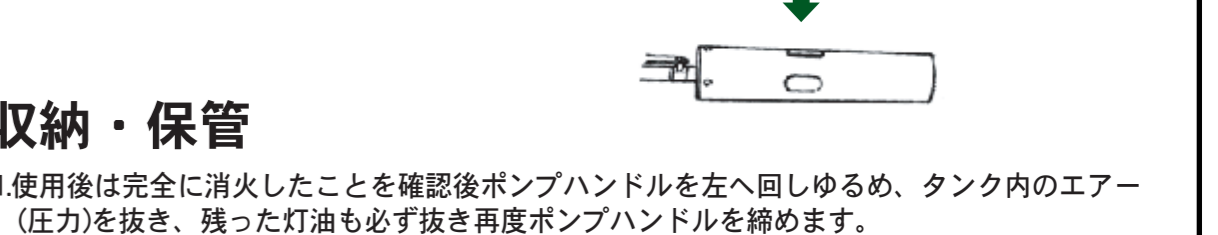
- 緊急の場合は、燃料開閉レバーを閉じパーナードを水中につけるか、又消火器を使って消火します。

■ 予熱の準備



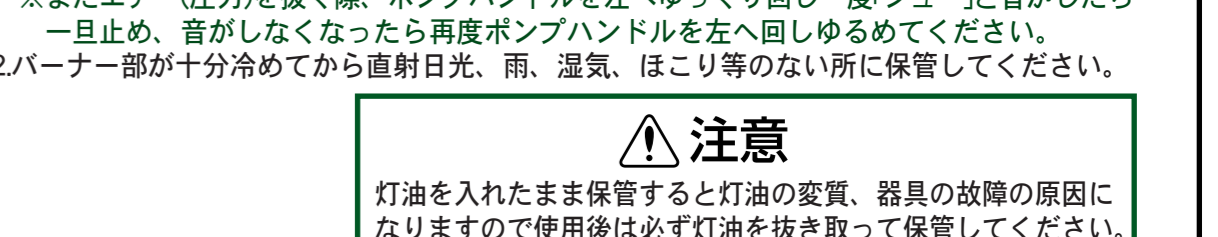
- 予熱の準備は必ず行ってください。「予熱」とは灯油を酸化させて燃焼させるため酸化器をあらかじめ加熱する作業のことです。

■ 容器(ボンベ)の取り付け



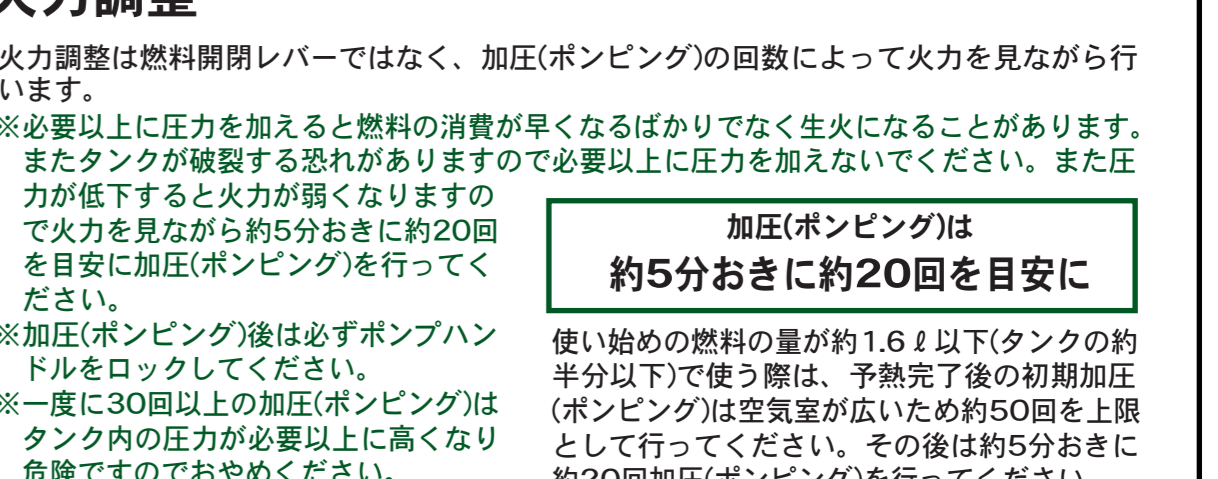
- 予熱の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。

■ 点火の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。



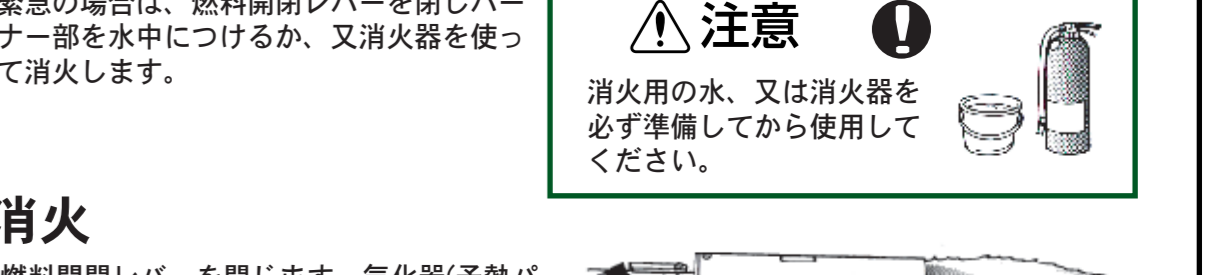
16

7. 消火



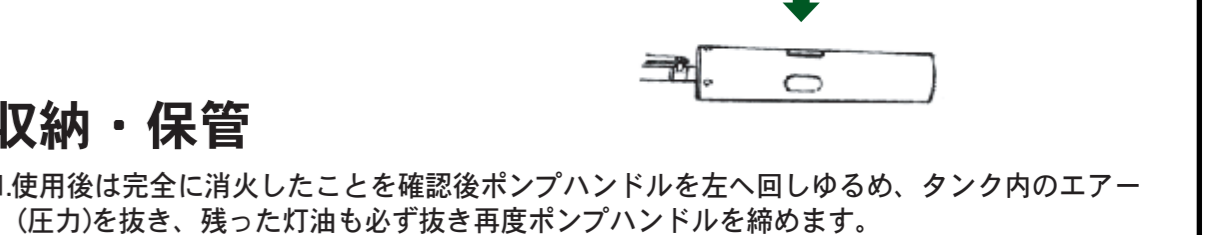
- 燃料開閉レバーを閉じます。酸化器(予熱パイプ)内に酸化ガスが残っているため、火はすぐに消えませんが次第に消えてゆきます。

■ 予熱の準備



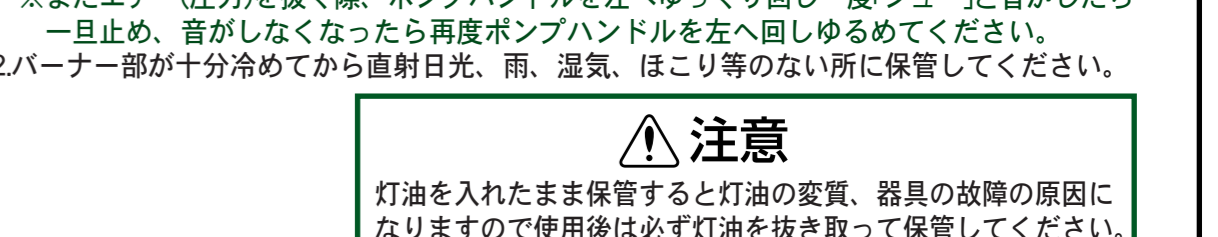
- 予熱の準備は必ず行ってください。「予熱」とは灯油を酸化させて燃焼させるため酸化器をあらかじめ加熱する作業のことです。

■ 容器(ボンベ)の取り付け



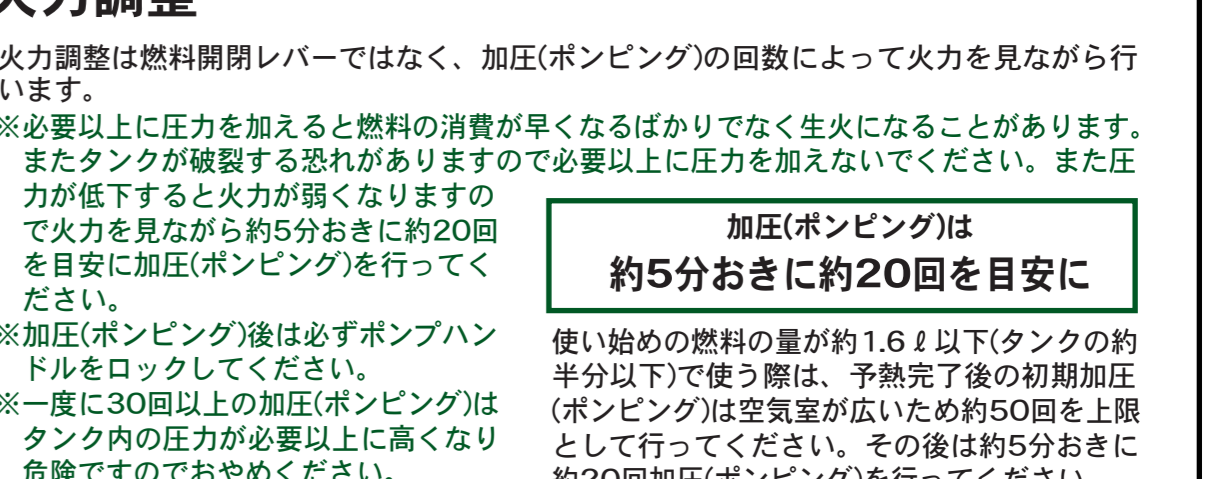
- 予熱の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。

■ 点火の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。



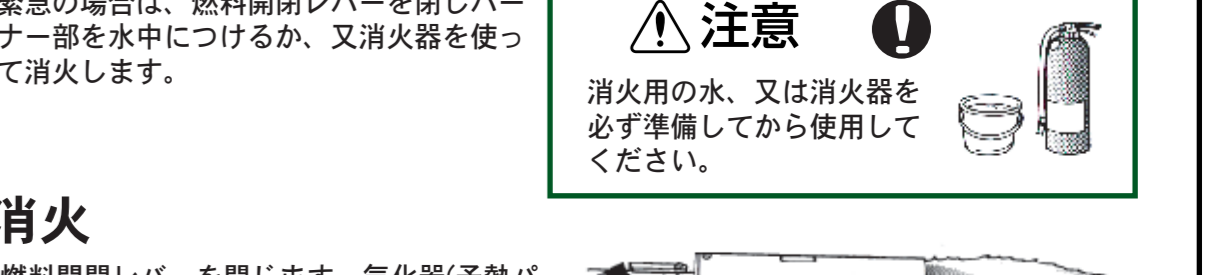
17

8. 収納・保管



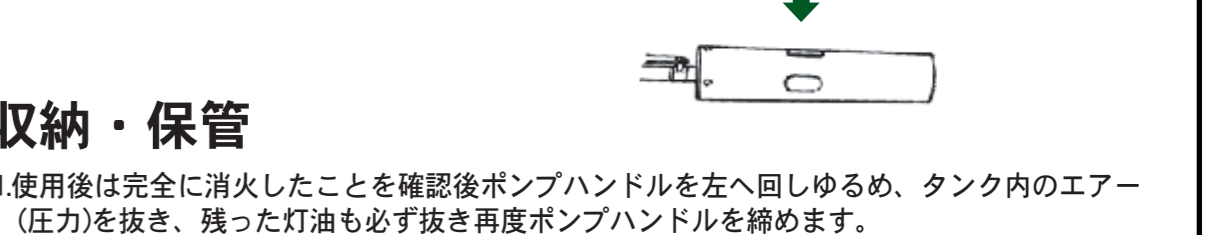
- 1. 使用後に完全に消火したことを確認後ポンプハンドルを左へ回しゆるめ、タンク内のエア(圧力)を抜き、残った灯油も必ず抜き再度ポンプハンドルを締めます。
- ※この作業は燃料タンクを必ず水平な地面に置き直立状態で行ってください。また霧状の灯油が吹き出ることあるので、周囲に火気のないことを必ず確認してください。
- ※またエア(圧力)を抜き、ポンプハンドルを左へゆっくり回し一度「シュー」と音がしたら一旦止め、音がなくなったら再度ポンプハンドルを左へ回しゆるめてください。
- 2. パーナードが十分冷めたら直射日光、雨、湿気、ほこり等のない所に保管してください。

■ 予熱の準備



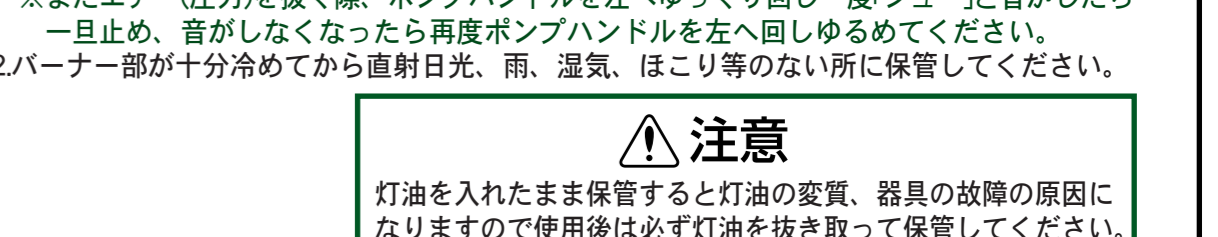
- 予熱の準備は必ず行ってください。「予熱」とは灯油を酸化させて燃焼させるため酸化器をあらかじめ加熱する作業のことです。

■ 容器(ボンベ)の取り付け



- 予熱の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。

■ 点火の前に酸化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。



18